

取材日：2017年11月6日



地域での活躍を期待して新たにLCDEを養成。 多職種がさまざまな場で質の高い療養指導を。

Point of View

- ① 『静岡糖尿病療養を語る会』をベースに県中部で地域糖尿病療養指導士(LCDE)を養成、認定
- ② 特に診療所の看護師や薬局薬剤師など地域に密着して活動できる職種、理学療法士など介護にもかわる職種の資格取得を促す
- ③ 院内や地域で多職種をつなぎ、糖尿病医療の質向上に貢献する人材を育成

医療法人社団正心会岡本内科医院院長/
井村糖尿病・甲状腺疾患センター

井村 満男先生

地方独立行政法人静岡県立病院機構
静岡県立総合病院副院長/
糖尿病・内分泌内科/
静岡県糖尿病協会会長

井上 達秀先生

社会福祉法人恩賜財団済生会支部
静岡済生会総合病院リハビリテーション科/
静岡県済生会小鹿なでしこ苑
理学療法士/日本糖尿病療養指導士

土谷 昇氏

日本赤十字社
静岡赤十字病院看護部/
糖尿病看護認定看護師

柿宇土 敦子氏

CDEJと前後して誕生した 『静岡糖尿病療養を語る会』

糖尿病治療における生活指導のエキスパートである糖尿病療養指導士(CDE)を育成しようと、日本糖尿病療養指導士認定機構が発足したのが2000年。翌年3月には第1回の認定試験を実施、4,300名余りの日本糖尿

病療養指導士(CDEJ)が誕生した。この動きと前後して、1999年に静岡県中部で発足し、活動を始めたのが『静岡糖尿病療養を語る会』(以下、語る会)である。同会の代表を務めてきた岡本内科医院院長の井村先生が解説する。「語る会の趣旨は、糖尿病医療について医師と医療スタッフとがともに

考え、話し合うことです。県中部の医師5名と医療スタッフ5名が世話人となってテーマや講師を決め、毎年2回開催してきました。現在、世話人の医療スタッフは全員がCDEJです」(井村先生)一方、LCDEと呼ばれる地域糖尿病療養指導士の資格取得者は、1997年に福岡県北九州地区で初めて生ま



左から井村先生、井上先生、土谷氏、柿宇土氏

れた。現在では、各地の実情にもとづいた資格認定制度があり、全国のLCDEの総数は約30,000名。20,000名弱のCDEJより多くなっている。

「CDEJになるための受験資格のハードルはかなり高く、講習会も大都市圏でしか開催されないため資格取得は、なかなかたいへん。資格更新の中断者も多いようです。そこで、LCDEの資格保持者が増えてきたのでしょう。

当県では、静岡県西部糖尿病療養指導研究会が、全県の医療スタッフを対象にLCDEである静岡県西部糖尿病療養指導士の育成と認定を始めました」(井村先生)

語る会を核にして 新たなLCDEの認定制度を

全国的に糖尿病治療にかかわる医療スタッフの資格制度の整備が進む中、静岡県の糖尿病医療は厳しい状況が続く。

「2015年、静岡県の糖尿病による死亡率は、全国平均と比較して高く、糖尿病専門医や糖尿病看護認定看護師、CDEの数は全国平均より、はるかに少ないとのデータが出ています(【資料1】)」(井村先生)

静岡県糖尿病協会会長で、語る会では世話人を務めてきた静岡県立総合病院副院長の井上先生が、加えて語る。

「同じ県内でも中・東部で糖尿病専門医やCDEの不足が目立ちますが、それでも糖尿病診療を標榜する医療機関数は全国平均並み。この数字が意味するのは、非専門医の先生方がそうとうがんばって多数の糖尿病患者を診てくださっている実態です。

また、糖尿病性腎症予防化に関する最近のデータによると、透析予防外来を設けている医療機関の数が静

【資料1】

静岡県の糖尿病に関するデータ(2015年)

(1) 死亡率と罹患頻度	
死亡率	12.6名/100,000名(全国平均10.6名)
有病率(40~74歳)	男性 11.9%
	女性 6.0%
予備軍	男性 12.3%
	女性 10.5%
(2) 糖尿病医療従事者	
糖尿病専門医	2.4名/人口100,000名(全国平均4.1名)
糖尿病看護認定看護師	0.3名/人口100,000名(全国平均0.6名)
糖尿病療養指導士	10.7名/人口100,000名(全国平均14.3名)

出典：静岡県疾病対策課

岡県にはきわめて少ない。つまり、多職種によるチーム医療が必要な専門性の高い糖尿病診療が手薄なのです」(井上先生)

こうした現状を総合して行き着いたのは――。

「特に中・東部で、地域の患者さんと接する機会が多い医療スタッフをレベルアップしなくてはならない。糖尿病医療に関する知識や技術を学んでCDEの資格を取得し、チーム医療をコーディネートしていけるような人材を、どんどん育てる必要があると考えました」(井村先生)

「日本糖尿病協会もLCDE認定制度のサポート活動を全国展開していく方針で動いており、東西に長い静岡県では静岡県西部糖尿病療養指導研究会が行うのとは別に、中部や東部で認定制度を立ち上げるべきではないかと思いました」(井上先生)

何より中部には、前述した15年以上の実績を有する語る会が存在し、熱意にあふれる医師たち、医療スタッフたちがそろっていた。そこで、井村先生をはじめとする、語る会の世話人たちを核にLCDE養成・認定の準備委員会をつくり、話し合いを重ねた。

「そして2016年には、準備委員会を

正式に『静岡中部糖尿病療養指導士(SCL-CDE)養成運営委員会』(以下、運営委員会)として活動をスタートさせたのです」(井村先生)

2016年より講習会と資格試験 初年度合格者37名が始動

運営委員会のメンバーは10名の医師と、CDEJの資格を持つ医療スタッフ12名。会長を井村先生が、副会長を井上先生と静岡県済生会小鹿なでしこ苑の理学療法士、土谷氏が務め、メンバーにはほかに看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師の計5職種が加わっている。それぞれの立場で糖尿病医療の現場を経験しているメンバーが、講習会のプログラムを考え、資格試験の準備を整えていった。

SCL-CDEの資格対象者は、県中部で活動する看護師、准看護師、薬剤師、管理栄養士、栄養士、理学療法士、臨床検査技師、歯科衛生士の6職種。受講及び受験資格は「3年以上糖尿病診療にかかわっている」のみだ。

「CDEJの受験資格は先に申し上げたようにハードルが高く、糖尿病専門医または日本糖尿病学会員の医師が

所属して患者教育や食事指導が恒常的に行われている医療機関で、通算1,000時間以上の療養指導や10例以上の自験例が必要といった規定があります。となると、糖尿病専門医などがない診療所勤務の医療スタッフは受験資格さえ得られません。その点で門戸を広げ、学ぶ意志と意欲のある皆さんに受験の機会を与えられるのは、LCDE認定制度ならではの良さでしょう」(井村先生)

2016年6月から9月にかけて運営委員会メンバーが講師を務める単位制講習会を16回開催。そして同年11月に第1回の資格試験を実施した。「受講申し込み者は54名で、うち受験資格を満たした方は37名でした。うれしいことに全員が合格して、SCL-CDEとなりました。

日本糖尿病協会から活動補助金をいただいたおかげで、資金面の苦勞が少なかった点も、認定制度を企画してからの組織づくり、講習会や試験の準備、実施まで非常にスムーズに進められた大きな要因のひとつです」(井村先生)

「もちろん、井村先生の熱意と人望の厚さも欠かせませんでした。先生の思いが伝わったからこそ、メンバーが自発的に動き、実現できたのです」(井上先生)

37名のSCL-CDE第1期生の内訳は総合病院看護師と薬局薬剤師が各13名、診療所看護師と管理栄養士、歯科衛生士が各3名、理学療法士と臨床検査技師が各1名。すでに各職場で、質の高い療養指導の実践に取り組んでいる。

CDEはさまざまなスタッフと最新の知識や情報をつなぐ

SCL-CDEによる療養指導の成果が本格的に発揮されるのはこれからだ

が、そもそもCDEの資格は臨床現場で、どのように生かされているのだろうか。

たとえば、理学療法士の場合。土谷氏はCDEJの第1回認定試験で合格した経験豊富なCDEである。

「糖尿病の治療においては、薬物療法、食事療法と並んで運動療法が重要である点はよく知られています。

そこで以前、病院で勤務していたときには、CDEとして院内外の糖尿病教室で患者さんに運動療法の話をしたり、ほかの医療スタッフに積極的にレクチャーするなどの活動をしました。

高齢の糖尿病患者や、ほかの疾患と糖尿病とを合併している患者さんが増加する中、個々人に適した運動を考え、指導するのは理学療法士です。そうした場や、機会が増えている今、より多くの理学療法士がCDEの資格取得をめざし、幅広い指導ができるようになることを望んでいます」(土谷氏)

現在は、特別養護老人ホームに勤務する土谷氏。新薬が次々に開発される時代の薬物療法や高齢者に最適な血糖コントロールなど、糖尿病治療の最新の情報は、特別養護老人ホームのような介護関連施設にはなかなか届かず、介護スタッフからそれらについて問われるケースも多いと言う。

「医療スタッフだけでなく、介護スタッフにも糖尿病に関する知識や最新の情報を提供するのが、私の務めだと思っています。

CDEの資格の取得をすすめる理由は、患者さんに適切な療養指導を行えるようになるからだけではありません。CDEは、糖尿病患者を支える多くのスタッフと最新の知識や情報をつなぐ役割も果たせるのです」(土谷氏)

【資料2】

SCL-CDE認定バッジ



「J」と「L」が補完し合い 糖尿病医療のレベル向上を

CDEJとLCDEの関係について語るのは井上先生。

「私は、『J』と『L』とは補完し合う関係だと考えています。

LCDEは、CDEJよりも地域に密着した医療の現場で患者さんと向き合うとともに、地域の多職種と協働するのが使命。

そして、CDEJは、それらに加えてLCDEの養成や、全国規模の学会への参加等を通じて、他地域のCDEとの交流、情報交換を行うことも重要な使命です。

CDEJとLCDEが協力し合い、補完し合いながら、地域の糖尿病医療のレベルを引き上げてほしいと願います」(井上先生)

多様化する療養指導には CDEのサポートが必要

土谷氏の話に出た「高齢」「合併」は、現在の糖尿病医療のキーワードとも言える。静岡赤十字病院の柿宇土氏は糖尿病看護認定看護師。院内で糖尿病ケアのチームをリードし、フットケアなどにも熱心に取り組む傍ら、運営委員会のメンバーとして講習会の講師や座長を務める。

同氏が看護師の立場から話す。

「高齢の糖尿病患者、糖尿病合併症患者が増えるにつれ、対応すべき患者さんの生活様式が多様化しています。それぞれの患者さんが生活する中で、治療を継続するには何が必要か、患者さんだけでなくご家族や介護者も含めてどうサポートしてあげばいいのか。患者さんが100名いれば100通りの生活があり、100通りの療養指導が求められます。

それらを行っていくには、多職種のスタッフの力の結集が必須です」(柿宇土氏)

糖尿病におけるチーム医療の重要性は言わずもがなだが、肝心なのはチームがいかにも機能的に活動できるかだろう。

「実現のためには、多職種の医療スタッフをコーディネートする存在が不可欠です。その役割は、しっかりと知識や技術を身につけ、新しい情報へのアクセスができる者が、務めなければなりません。しかし現状では、多くの現場でコーディネーターの機能を果たしている糖尿病看護認定看護師やCDEJの資格を持つ看護師が少なすぎる。

現場にいる医療スタッフ皆が正しい知識を学び、経験を重ね有能な実践者となるよう育成していく役割をともに担ってもらえる存在として、SCL-CDEにはたいへん期待しています」(柿宇土氏)

柿宇土氏の勤務する静岡赤十字病院にはSCL-CDE 1期生の看護師が4名在籍し、SCL-CDEの認定制度に対する声が聞こえてくるという。「受験資格がCDEJより緩和されていて受けやすい」、「充実した講習会のプログラムによって達成感が得られた」等々。

「『講習会で学んだ内容を、すぐ目の前の患者さんの指導に生かせ、し

かも患者さんに良い変化が表れた』と喜ぶ様子も目にします。講習会と資格取得を通じ、『自分はやれる』と自信を持てるのは、とても有意義なことでしょう」(柿宇土氏)

看護師のCDEの資格取得については、井村先生も期待を寄せる。

「一般の糖尿病外来や透析予防外来のような重症者向けの専門的な診療を行う医療機関はもちろん、非専門医が診ている診療所においても、医師を的確にサポートし、患者さんの生活を指導できるCDEが多数いてほしい。SCL-CDE認定制度を立ち上げた大きな理由は、そこにもあるのです」(井村先生)

各職種のCDEの交流が 多職種連携のきっかけに

SCL-CDE認定制度立ち上げから2年目を迎えた今、運営委員会メンバーたちに、今後の活動をどう見据えているのか尋ねた。

「CDEJの資格を持つ理学療法士は県内で15名、SCL-CDEは1名と、まだまだ少数です。SCL-CDE 2期目の2017年の講習会には4、5名が参加しているそうですが、今後さらに増えてほしいですね。

また、どのような疾患であっても多職種の連携は重要ですが、糖尿病の療養指導を通じて、いろいろな職種のSCL-CDEが増えれば、糖尿病以外の疾患の多職種連携のきっかけになりえると思います」(土谷氏)

「SCL-CDEが、自分の体験を語る場があるといいと思います。

さまざまな医療スタッフと、あるいはCDEJと、実践の場で感じたことなどをシェアすれば、皆でいっしょに糖尿病医療をレベルアップしていかうとの意識が高まるのではないでしょう」(柿宇土氏)

「これからは糖尿病医療のいろいろな場面で、あるいは介護関連施設においてもCDEの役割が大きくなり、活躍の場はさらに増えていくでしょう。SCL-CDEの講習は、受験のためだけでなく知識、技術のブラッシュアップのためにも使っていただきたいと思います。

そして、県の中部に続き東部でもLCDE認定制度を立ち上げるのが、当面の静岡県糖尿病協会の大きな課題です」(井上先生)

「SCL-CDEとCDEJの交流会は、ぜひ企画したいところ。そして各医師会への情報提供や働きかけも積極的に行い、SCL-CDEの認知度を高めたいと思います。

そのほかにも運営委員会メンバーの皆さんの意見をどんどん取り入れて、充実した活動を続けていく所存です」(井村先生)

医療法人社団正心会岡本内科医院 井村糖尿病・甲状腺疾患センター

〒425-0022
静岡県焼津市本町6-14-8
TEL: 054-628-2342

地方独立行政法人 静岡県立病院機構静岡県立総合病院

〒420-8527
静岡県静岡市葵区北安東4-27-1
TEL: 054-247-6111

社会福祉法人恩賜財団済生会支部 静岡県済生会小鹿なでしこ苑

〒422-8021
静岡県静岡市駿河区小鹿402-1
TEL: 054-260-4165

日本赤十字社静岡赤十字病院

〒420-0853
静岡県静岡市葵区追手町8-2
TEL: 054-254-4311